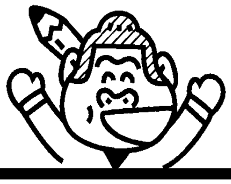
資料番号2742



木はどうしてあんなに大きく育つの

●種類によって、大きさがほぼ決まっている

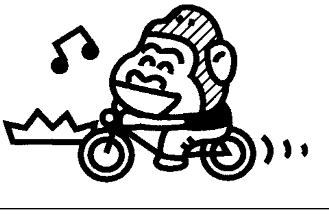
木は、種類によって、成長する大きさが、ほぼ決まっています。人間や、イヌ、ネコ、ネズミ、ゾウも、種類によって、おおよその大きさが決まっています。ゾウのような大きさのネズミやイヌはいません。なぜでしょうか。

木や、人間もふくめた生き物の体は、みんな、細胞でできています。木が、種から芽を出し大きくなっていくのは、種の中の細胞が、栄養をもらって、どんどん細胞分れつ（一つの細胞が割れて、数をふやしていく）をし、新しい細胞の数が増えていくからです。人間なら、赤ちゃんのときから１５～２０才（人によって少しちがいますが）ぐらいまで、背がのび、体重も増えて大きくなっていきます。でも、それをすぎると、体重が増えることはあっても、背が大きくなることはありません。もう、成長する細胞の数が、増えなくなったのです。だから、ふつうの人の２倍も背たけがある人は、現れないのです。木も同じなのです。

●木は、じゅ命も長い

木の種類によっては、巨大なものもあります。今、世界でいちばん巨大な木といわれているのは、アメリカのセコイア国立公園にあるセコイアオスギで、高さ８３．８２メートル、幹のまわりが３１．３メートルもあり、根もふくめた重さは、およそ２０００トンとされています。このセコイアオスギは、じゅ命も長く、学者の研究では、６０００年といわれています。成長する期間も長いのかもしれません。

木も、日光や水、栄養分、元気に生きていける気温や土、などの環境がそろっていないと、ちゃんと成長できませんし、じゅ命も短くなります。（監修・矢野　亮）



無断複製：転載：翻訳を禁ず Gakken